



Design Wave 設計コンテスト 2003 結果発表



Design Wave Magazine 編集部では、「Design Wave 設計コンテスト 2003」を行いました。2002年11月号（2002年10月10日発売）でコンテストの告知を行い、2003年1月31日に応募を締め切りました。

課題は、デジタル画像やデジタル音声のデータ量を圧縮する技術の一つである「静的ハフマン符号用可変長符号」のデコーダ回路を設計するものです。仕様については本誌2002年11月号のpp.169-175で詳しく解説しています。

- 1位 上原昭宏
- 2位 山田和也
- 3位 佐藤高志 (アジレント・テクノロジー)

今回の課題では、ゲート規模と速度を追求するチームが目立ちました。このいずれか(あるいは両方)を目指したチームの間では、圧倒的な差は見られませんでした。シンプルな構成にした回路はハードウェアとしてはごく普通であり、相対的にユニーク性の評価が下がってしまいます。ユニーク性がある回路構成で、ゲート規模や速度も比較的良好な設計が高い評価になりました。

賞品として、第1位の上原氏には、琉球大学における発表会講演を兼ねた2泊3日の沖縄旅行のほか、副賞のデジタル・カメラとPDAが、第2位の山田氏にはHDD付きDVDレコーダが、第3位の佐藤氏にはDVDレコーダが贈られました。

Professional 部門の結果

速度、ゲート規模、ユニーク性、実現性の4種類の点から評価を行った結果、社会人を対象とするProfessional部門の入賞者を以下のとおりに決定しました。

Student 部門の結果

琉球大学工学部のご協力をいただき、本誌上では、同大



発表会が開催された琉球大学工学部



琉球大学工学部 和田知久氏



表彰式の様子
Student部門で優勝したチーム via SUN.

デザイン・コンテスト
発表会のようす



Professional 部門
第1位
上原昭宏氏



Student 部門 優勝
チームvia SUN
鳴谷篤人氏



Student 部門 優秀賞
チームカルシウムブソク
杉村武昭氏



Student 部門 優秀賞
チームSENRI
東剛広氏



懇親会のようす

▶入賞者と審査員のみなさん



学が主催する「シリコン・シーベルト・デザイン・コンテスト2003」をDesign Wave 設計コンテストのStudent部門とさせていただいております。Student部門(大学, 大学院修士, 工業高等専門学校など)の設計は, 琉球大学によって1次審査が行われました。そしてこの審査を通過した11チームが, 2003年3月7日に琉球大学で開催された「シリコン・シーベルト・デザイン・コンテスト2003 最終発表会」に招待されました。

韓国のChosun UniversityとインドネシアのBandung Institute of Technologyから, それぞれ1チームの参加があり, 前回に続いて国際的な発表会になりました。また, ゲストとして, Professional部門第1位の上原昭宏氏が発表を行いました。

この発表会では, 国内・海外の大学, 企業, 本誌編集部などの11人の審査員が, 各設計をそれぞれ5段階で評価し, 総合点によって優勝と優秀賞を決めました。

●優勝: OUTSTANDING DESIGN AWARD

チームvia SUN

(京都大学 修士1年, 鳴谷篤人, 湯浅隆史, 多木良孝)

●優秀賞: SPECIAL FEATURE AWARD,

Senior Designers Section

チームカルシウムブソク(東北大学 修士2年, 杉村武

昭, 出口淳, 小野宏)

●優秀賞: SPECIAL FEATURE AWARD,
Fresh Designers Section

チームSENRI(九州工業大学4年, 東剛広)

チームOIT(大分県立工科短大2年, 小畑浩和, 神野貴史)

●学科長奨励賞: Faculty Chair Special AWARD

チームApachee(琉球大学2年, 平良正治, 又吉太山)

チームガキヤウウタ(琉球大学2年, 稲嶺盛亮, 末吉裕, 名嘉秀和)

Student部門においても, ゲート規模と速度を追求するチームが目立ちました。しかし, 中にはコードの変更に簡単に対応できるように汎用性を持たせた設計や, パソコンと接続して画像を表示するくふうを施した設計も見られました。FPGAの利用は, Student部門であってももはやあたりまえになっており, 多くのチームが実機動作確認まで行っていました。

* * *

本コンテストの講評や各部門で優勝した設計の詳細については, 次号(2003年6月号)で詳しく紹介する予定です。

本コンテストの副賞の提供にご協力いただいた株式会社アクセル様に感謝いたします。